令和６年度　伊那市立美篶小学校評価表

学校関係者評価；（A：十分達成された　B：ほぼ達成された　C：不十分であった）　自己（項目間相対を加味した到達度）評価（a：十分達成された　b：ほぼ達成された　c：不十分であった）

学校教育目標	重点目標（中長期的目標）
「本気・根気・和気・元気」	「笑顔」と「愛（合い）」があふれる美篶小
	今年度の重点目標
	めざす子どもの姿 ○本気：自ら考え，友と深め合い，豊かな基礎力を持つ子ども ○根気：目標をもって，あきらめずに最後までやりぬく子ども ○和気：だれにでも思いやりの気持ちをもって接し，仲良く助け合う子ども ○元気：心と体を鍛え，安全にきびきびと活動する子ども

総合評価

・従来の学校運営や行事等，各教育活動のあり方を見直し，命を守ることを最優先した上で，その都度最良と考えられる判断をし，実施してきた。
・今年度の重点「自分（の命）も友達（の命）も大切にする子ども」が児童，職員共に意識の根底に位置づいていた。社会の多様性について，子ども，職員，保護者ともに学習する機会を設けるなどして人権教育に組んだ。今後さらに人権感覚を磨き，児童の学校生活の満足感や自己肯定感の向上につなげていく。
・他者との関係づくりの基本として，あいさつと返事が気持ちよくできる子どもの姿をめざしていく。
・学校や学級の活動が地域の複数の関係団体や区民の皆さんとマトリクス組織的に絡み合い，重点目標は十二分に達成している。（学校運営委員）

成果と課題	評価	改善策・向上策
○「対象や他者と豊かにかかわり，自ら学び，表現する子どもの育成」をテーマとした授業づくりでは，教材について工夫，研究することで子ども達の関心，意欲を高められた。子どもの表現力を高めることで，子ども同士の学び合いがより豊かなものになると考え，次年度の課題と考えている。 ○iPad の活用等，ICT の活用が定着してきている。AI ドリルの活用を推進している。低学年での利用促進や，様々な考えの共有からの学びの深まりが課題。	(B) b	○自ら学び表現する子どもの育成を目指す。そのために，感じたことや考えたことを「伝えたい」と子ども自身が感じることを大切にしたい。そのような気持ちを抱かせるような手立てを考えながら授業つくりを進める。 ○日々の「授業の充実」をめざす。今年度の研究からみえてきた，日常の事案から，「知りたい」，「やりたい」と思える対象と出会わせることを大切にする。 ○ICT の活用を継続して工夫し，AI ドリルの活用を学校全体（低学年含む）で進める。
○「目標をもってあきらめずに最後までやりぬく子ども」の具体として，清掃場面における目指す姿を示してきた。丁寧に掃除をする児童の姿も見られた。清掃をはじめ児童会当番活動等，根気ある取組みを目指す活動では，異年齢の関わり，上級生が下級生に見せる姿が課題解決につながると考える。	(B) b	○異年齢の児童同士が関わる活動を少しずつ位置づけられるようにしていく。上級生が下級生に教えたりアドバイスしたりすることで，互いの意識向上につなげられるよう工夫していく。桜並木活動も異年齢集団での活動を継続する。
○児童会活動を中心にあいさつ活動に取り組んできた。しかし，登下校の見守り隊の方々や友達へのあいさつは，相手に伝わっていないようにも見える。相手を意識した挨拶をめざしたい。また，交通安全や防犯につながる地域の方への挨拶も進んで行えるよう，次年度以降も取り組んでいきたい。	(B) b	○児童会を中心にあいさつ活動を企画して行っていく。また，保護者や地域の方たちにも呼び掛け，協力をお願いし，学校と家庭，地域が協力して取組めるよう働きかける。
○外や体育館で元気に遊ぶ子どもの姿が毎日見られた。体を動かし，のびのびと友達と関わり合って遊ぶ姿が微笑ましい。児童玄関に設置されているフラフープや一輪車に挑戦する姿も見られた。感染症予防に関しては，手洗い・換気の徹底が日常化している。怪我予防の意識向上が課題。	(A) a	○健康な生活のために，朝ごはんの勧め，睡眠時間の確保，ネットやゲーム時間の区切り等の健康教育を行う。家庭にも情報発信し，協力をいただく。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育活動	教育課程	○学校教育目標の具現	○学校教育目標から「めざす子どもの姿」を具体的にイメージ・設定し，具現化できるように努めたか	○学校教育目標から学級目標を決め，日常的に意識できるよう具体的な内容にした。学級毎，適時振り返りを行い，子どもの意識の継続に努めている。外で元気に遊ぶ子どもの姿が多く見られ，体を動かし，友だちと関わりながら自他を大切にする姿が多く見られた。	(B) b	○学校目標や学級目標が，日常的に児童が意識化できるような支援を工夫する。具体的な姿を共有しあい，児童の自己評価や相互評価を重視し，意識の向上につなげる。 ○連学年や学年内で連携しての目標設定，評価を行うことを検討する。
		○桜並木活動・地域学習等，本校としての特色ある教育活動の充実	○桜並木活動の継続・資料館体験学習・朝の活動・食育等，本校としての特色ある教育活動は，子どもたちの生きる力を育むことにつながったか	○本校の特色ある活動である桜並木活動は春と秋に実施。縦割りの異年齢集団動で，体験を通した学びとなった。地域の方との交流もあり，地域を学ぶ貴重な機会として継続する。秋の活動は６年生のみだが，並木活動後に，地域の方から歴史について学び，より地域を深く学ぶ機会となった。	(A) b	○桜並木活動は，春に 4～6 年生，秋に 6 年生のみで行うことを継続していく。4・5 年生は，秋に社会科の学習も兼ねて，地域を知る学習（三峰川の堰，井筋の歴史等）として活動内容を工夫，計画していく。
	学習指導	○学力の定着 学力分析による実態把握からの授業つくり	○全国学力学習状況調査・ベネッセ学力検査等の標準化されたテスト結果の分析を基にした授業改善により，具体的な成果が上がったか ○単元テストや AI ドリル等の活用や結果を基に，具体的な支援や授業改善を行ったか	○学力検査の結果分析から，学力の課題が明確になり校内で共有。昨年度の，算数の理解と定着において，多角的なものの見方や考える力を身につけられるような学習指導を目標において全校で取り組み，一定の成果が見られた。協働的な学習の効果を高めるためにも，子ども達の表現力を，自己表出の力を高めたい。	(B) b	○どの授業でもつける力を明確にした授業の充実を目指す。「伊那市確かな学力をつける授業づくりの充実」「美篶小『わかる授業の 3 観点』」を再確認し，「ねらい・めりはり・見とどけ」を基本とした授業づくりを意識する。 ○来年度は，自己表出を目標にして，子どもが，自分の考えを書くことができる，発表することができることを目指す
		○授業改善 ICT の活用を探り，協働の追究と自己の振り返りを意識	○主体的・対話的で深い学びやＩＣＴの有効な活用等を意識した授業改善に積極的に取り組んだか。また，協働の追究場面やふりかえりの時間の確保ができたか	○iPad 等 ICT 機器について，活用の意識が高まっている。効果的な活用方法をさらに探っていく。 ○AI ドリルを活用し，瞬時に結果が子ども達にフィードバックできるメリットを実感しており，より活用を進めていきたい。意欲的な姿が多く見られる一方，学力につながっているかは検証できていない。	(B) b	○iPad 等 ICT 機器について，さらに職員研修を行い，より日常的に使用できるようにする。あわせて子どものモラルやリテラシー等も高め，トラブルの予防としたい。 ○AI ドリルの活用を推進する。児童が自分でつまずきに気づいたり，解決したりできるよう，学習状況の把握を行う。
	生徒指導	○学級づくりと支援体制の充実	○配慮を要する児童に対して，生徒指導主任，特別支援教育コーディネーターに情報が集まるような支援体制をとり，連携して支援にあたったか	○個々の児童の特性等，児童理解は最重要と考え，組織対応を心がけた。生徒指導主任を中心に，毎回の職員会議において全職員での情報共有も行ってきた。支援を要する児童に対する効果的な指導について，巡回指導員，通級教室指導員等に助言をいただく機会を設け，改善に取り組んだ。	(A) a	○配慮を要する内容については，特別支援コーディネーターに情報が集まる体制を年度当初に確認する。定期的な支援会議を行い，情報共有・対策検討の場とする。必要に応じて臨時の支援会議を開ける柔軟な対応も可能にする。 ○経年変化が検討できるように，数値化やアンケート結果の分析を検討する。
		○問題行動の早期発見・迅速な対応のための体制の構築	○情報収集に努め，いじめ・不登校等，生徒指導に関する問題の予防・早期解決にむけ迅速に対応した支援を行ったか	○不登校傾向児童への支援では外部機関と連携し，中間教室や，SC，SSW の相談等，個別に対応し，少しずつ前に進むようつないでいる。子どもと親の相談員の常駐する「いこいの部屋」が安心できる居場所になっている子どももいる。	(B) b	○不登校または不登校傾向の児童については引き続き，職員会議や支援会議で情報共有し，本人や保護者とも相談して，SC や中間教室，寺子屋などの外部機関とも連携しながら，個に応じた居場所づくりを行う。
学校運営	安全	○安全教育の充実	○交通安全指導，登下校指導，避難訓練などを行い，子どもの安全意識を高める教育を行ったか	○交通安全，感染症対策，自然災害等について，「命を守る」観点で安全指導を行うことができ，子ども自身の意識を高める事につながった。避難訓練については，年 4 回行い，丁寧に指導した。しかし，道路歩行の仕方や自転車技能，挨拶についての課題が見られた。	(B) b	○登校指導や下校指導，避難訓練，不審者対応訓練は今年度同様に実施する。９月に市の防災訓練も計画されており，子ども達の安全意識を高めるために参加を呼びかけたい。交通安全教室の内容についても，地域の道路状況を把握した上で必要に応じて検討したい。
		○安全点検や危機管理マニュアルの整備による児童の安全確保	○安全点検を日常的に行ったり，危機管理マニュアルの見直しを行ったりして，子どもの安全確保につとめたか	○危険箇所や不具合等について早期に対応。対応困難なものや緊急を要するものは市教育委員会とも連絡を取り合い，修繕した。今後も児童の安全を最優先に対応する。	(A) b	○緊急時のオクレンジャーでの保護者への連絡は良い。地域の関係機関への連絡方法の検討が必要。本年度は職員対象の不審者訓練研修を実施たが，来年度は子ども達自身が身を守れるようになるための訓練を計画したい。
	地域との	○地域の教育力の活用	○総合的な学習の時間，食育，教科学習等の教育活動において，地域の方を外部講師に依頼し，地域の教育力を活用した教育活動を行ったか	○開校記念行事において，地域の方を講師に体験学習を実施。地域の歴史や文化を学ぶことができ，地域の持つ教育力を活かした行事となった。森林教室や米つくり等では，地域の方から直接学ぶことができ，貴重な体験学習となった。高学年は，井筋や石碑について地域に出かけて学ぶ機会を設けることができた。ふるさとへの関心や素晴らしさの実感につながった。	(A) b	○地域の方々の力をお借りして，学習支援，環境整備，行事支援などできることを広げていきたい。来年度も，美篶公民館や社協に窓口となっていただき，地域と繋がる信州型 CS の地域学校協働活動の充実をめざす。

	連携	○ＰＴＡ活動の充実	○「For the children～全ては子ども達の笑顔のために～」をテーマに，PTA 活動への積極的な参加，子どもを守り育てる活動，親子の絆を深める活動を行ったか	○PTA 作業・PTA 懇談会は，運営の方法を工夫して実施。 ○PTA 講演会ではネット環境の現状を保護者にも理解いただくことを目的に講師を決定した。講演内容に必要性を感じている保護者が多く，昨年に比べて参加する保護者が多かった。	(A) a	○よりよい子どもの学びを支援することを目指した PTA 活動を計画，実施した。工夫により親子で絆を深め，充実感を味わう体験となった。 ○PTA 講演会は，時事や社会的に関心の高い内容，講師を計画したり，方法や時期を工夫したりして，積極的な参加を呼び掛ける。
	研修	○指導力向上をめざした授業研究	○教師一人一人が授業改善の自己課題を明らかにし，授業づくり・教材研究，ICT の活用等について研究を行い，研究成果を授業で公開し，お互い学び合って授業改善を行ったか	○ICT の活用や iPad の活用が授業の中で定着し，学び方の幅が広がった。職員同士の教材研究や学び合いも日常的に行っている。反面，情報モラルの指導の重要性が大きくなってきており，情報モラルやリテラシーについて職員が意識を高く持ち，児童への指導を繰り返し行っている。	(B) b	○ICT の活用，情報モラルやリテラシー教育，デジタルシティズンシップについては，積極的に外部講師を招いて，職員の研修の機会ともしたい。 ○学習指導研究を中心に，協働的な学習の進め方や子どもたちが主体性をもって学習に取り組める授業を職員同士学び合う機会をもつことを継続したい。
		○職員研修の充実	○特別支援教育研修，人権研修，地域研修など様々な研修に取組み，学級経営や授業づくり・生徒指導等に活かしたか	○特別支援教育研修，人権教育研修，MIM 研修，地域を知る研修，救命救急法研修等，必要と思われる内容は全職員で研修を実施してきた。また，非違行為防止研修は毎回（年 12 回）職員会議で行っている。	(B) b	○児童理解を中心に据えた研修を行うことで，職員の関心・意欲も高く保った研修が行える。また，子ども達の学習の幅を広げるために，地域（美篶）について職員が学ぶ機会を大切にしたい。